

大通

防災だより

第29号

過去の災害を知る

身近で起きた過去の災害を振り返り、被害を最小限にするための備えを考えましょう。



©しろねまちなかミュージアム

白根大火(昭和6年5月13日)

午後7時55分頃に、旧白根町五六の町表通り西側から出火。火の手は風に乗れり、町のおおよそ3割を焼きました。

もし大通で火事が起きたら・・・

- ・住宅密集地なので延焼しやすい
- ・火元の住宅から距離があっても安心できない。
風で火の粉が飛んで、離れた家が火事になることもある。
- ・気密性の高い構造の住宅が多いので、一酸化炭素中毒の危険もある。

小さな火にも油断大敵!

家の周りに燃えやすいものを置かないようにしたり、灯油タンクに漏れがないかなど点検が大事。

白根水害(昭和36年)

画像提供:南区地域総務課



✓ 死者1人 負傷者40人
床上浸水1800世帯
床下浸水1100世帯



集中豪雨で中之口川が増水し、旧富月橋付近から水が堤防を超え町に向かって猛烈な勢いで流れ込みました。土のうや石俵で防ごうとしましたが押し流されるばかりで、やむなく政府米を土のうの代わりに使う決断をし(米俵事件)、被害の拡大を防ぎました。

✓ 中之口川は住宅地よりも高い位置にある天井川

破堤・決壊する危機感をもって、気象情報や水位情報を常に確認しましょう。

新潟地震(昭和39年)



地震

新潟地震による被害(国道8号 下塩俵 昭和39年6月16日)

地震の規模はM7.5。旧白根市では道路や田畑の崩壊が多数ありました。



無気味な臭い口をむき出す地割れ
(下塩俵新道)



畑の地割れ(旧白根落石野地)



当時の根岸中学校では、液状化により校舎が傾斜し壁が落ち、簡易水道タンクは地中に埋没してしまいました。

(根岸地区住民撮影)

✔ 巨大地震に備えて…

- ・耐震構造の家が増えていますが、古い家も見られます。心配な方は耐震診断をして補強しましょう。
- ・ライフラインがストップするので水・食料など必要なものを備えておきましょう。

大通地域の水害

写真:大通地域住民撮影

平成7年8月3日



集中豪雨により大通はたびたび浸水被害にあっています。



平成10年8月4日



大通小学校の前を通る用水路があふれて、道路は冠水。
床上、床下浸水し、風呂もトイレも逆流するので使えない状態でした。
当日、被害が拡大しないように「風呂の水を流すな、洗濯をするな!」と連絡網が
まわったそうです。

平成23年(新潟福島豪雨)

中ノロ川が危険水位に達し、いつ破堤してもおかしくない状態となり、南区に避難勧告が出ました。

大通地域は、雨水のはけ口がなくなり、一帯が水浸しとなりました。



↑ 中ノロ川の水位は堤防ギリギリ!



✓正しい情報を得て、適切な判断、早めの避難を!

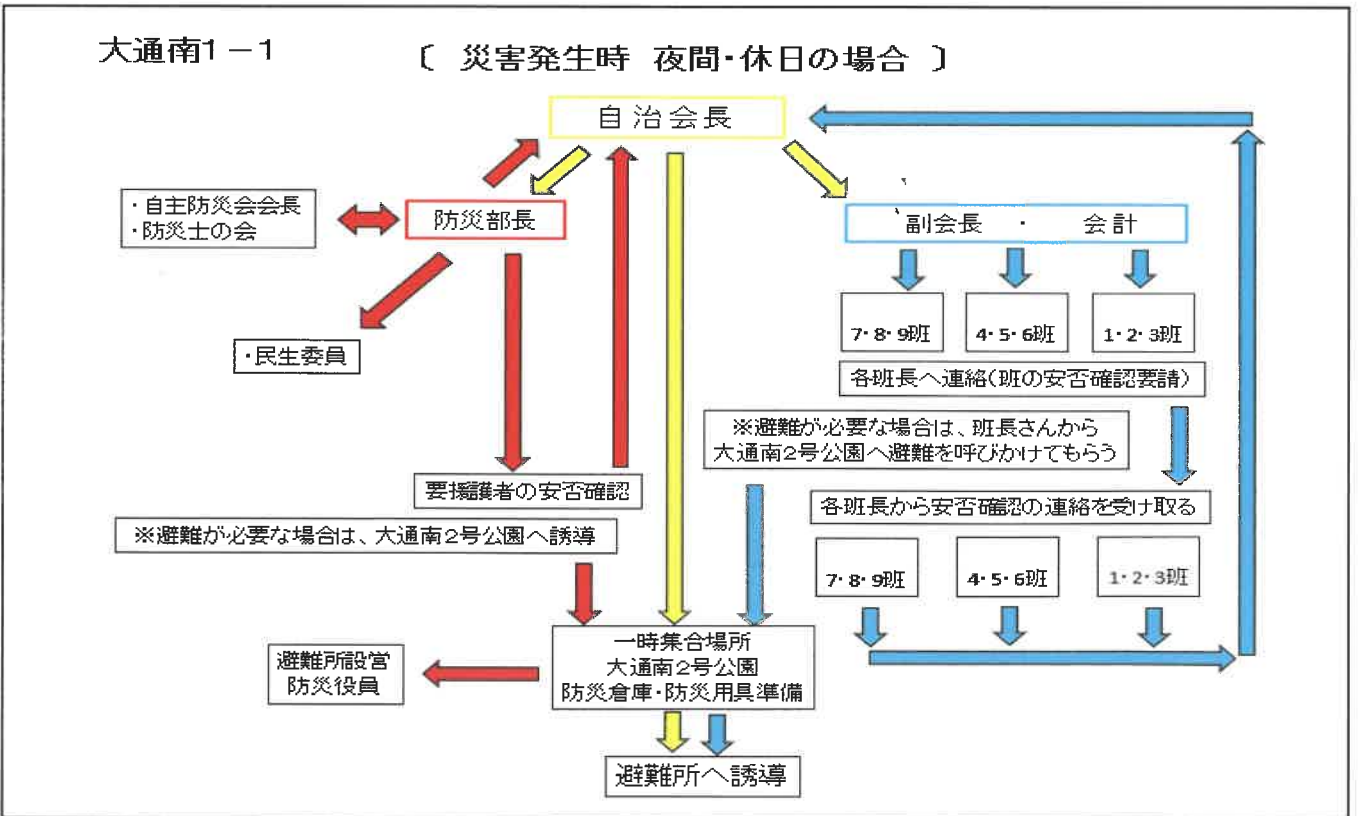
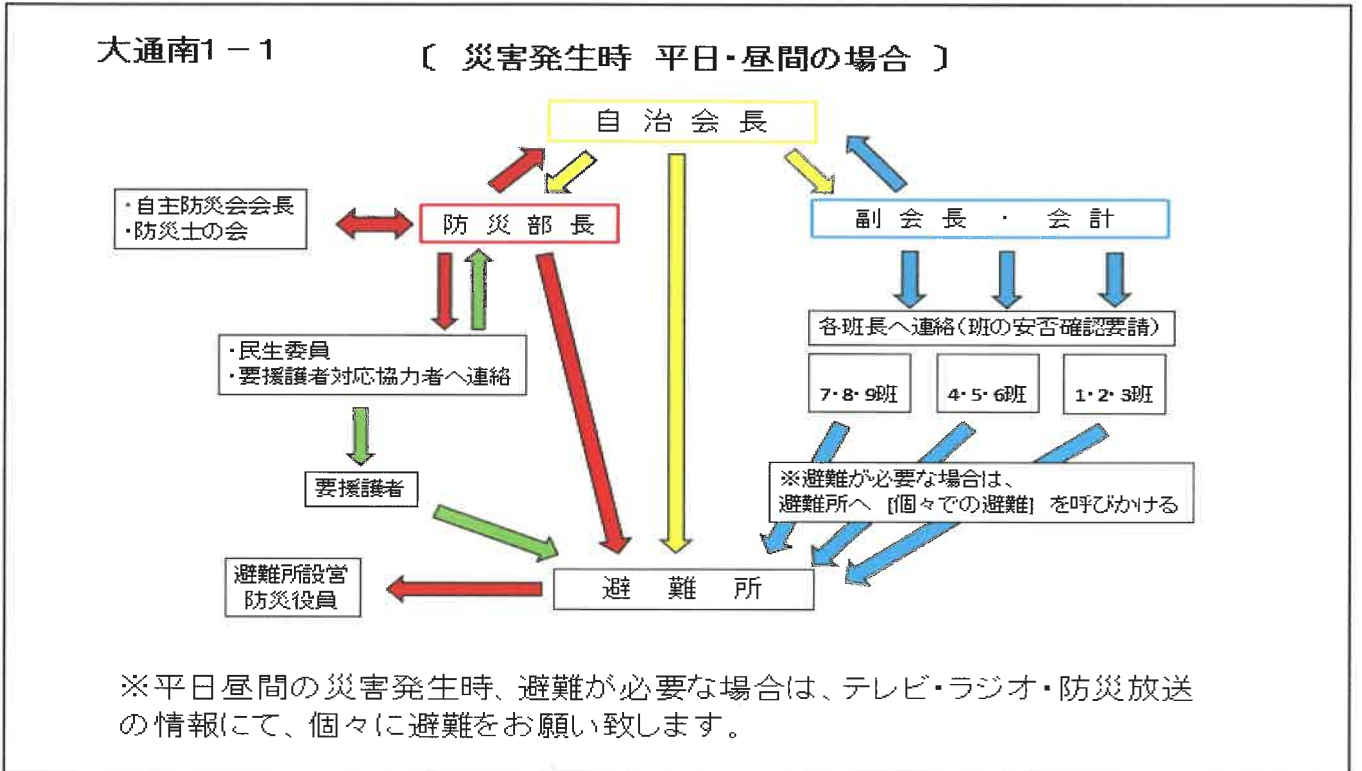
- ・中ノロ川が決壊すると、大通の建物の1階部分は水没すると想定されています。平屋建て、アパートの1階に住んでいる人は、早めに避難所、安全な知人の家へ逃げなければなりません。2階建ての家で、安全であればすぐに2階へ垂直避難しましょう
- ・お年寄りや自力で2階へ上がることができるのか確認しておくことが大切です。自力で避難できない人は自治会内の助け合いが必要です。
- ・自分の住んでいる場所が、水がたまりやすい場所なのか、ハザードマップで確認しておきましょう。
- ・日頃から、防災備蓄品は2階に用意しておくこと、イザというときにあわてません。

実際に災害が起きてしまったら…

『自分たちのまちは自分たちで守る』

事例紹介 大通南1-1自治会では系統図を作り、防災訓練を実施しています。

系統図



大通南1-1自治会では、下記のような防災意識を上げる啓発活動を行っています。

大通南1丁目第一自治会 防災部
現状を知り、各自・家族で準備する事の重要性を考えましょう！

1) 各避難所の避難者受入れ想定人数一覧表

■ 大通地域世帯数：2,411 世帯（2021年12月31日現在）

（※世帯＝人数ではありません。根岸・大鷲・塩俵地区も避難所を使用。）

避難所名	避難生活 2㎡/人	緊急避難 1㎡/人	水害 1㎡/人
白根北中学校	1,814	3,629	1,662
大通小学校	1,128	2,256	641
大通地域生活センター	247	495	235
大通保育園	169	338	—

- ・上記の表が、避難所の避難可能な人数の現状となります。
- ・避難者数に対し、避難可能な人数の確保が出来ていない事が分かります。
- ・地震の場合は、1-1自治会にて定められている一時避難場所（大通南2号公園）へ避難、その後避難所へ向かうか検討致します。
- ・上記の表から水害の場合は、全ての人が避難所へ避難する事は出来ません。そのため各家庭で【安全な親戚・知人宅への立退き避難】や【屋内安全確保・自宅（垂直）避難】の相談や準備を日頃からしておきましょう！

2) 備蓄品（※必要最低限）

- 非常食（最低3日分、可能なら7日分）
- 水（1人1日3リットルを最低3日分、可能なら7日分）
- カセットコンロ、カセットボンベ
- 簡易トイレ
- 乾電池
- 携帯電話などの充電器（モバイルバッテリー）
- 薬、救急用品（ばんそうこう、消毒液など）
- 乳児に必要な物（ミルク、紙おむつ、おしりふきなど）
- 生活用品（毎日使うもの）
- 工具（かなづち、ロープなど）

 お住まいの自治会の防災活動を確認しましょう。



「避難」って何すればいいの？

小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません。「避難」とは「難」を「避」けること。下の4つの行動があります。



行政が指定した避難場所への立退き避難

自ら携行するもの
・マスク
・消毒液
・体温計
・スリッパ 等

小・中学校
公民館

安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

親戚・知人宅

普段からどう行動するか決めておきましょう

安全なホテル・旅館への立退き避難

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

ホテル
旅館

屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認する必要があります。
■■■■ 想定最大浸水深

ここなら安全！

※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則です。

「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない (入っていると…)

流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が崩れ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高い

3-4階	5m~10m未満 (3階床上浸水-4階軒下浸水)
2階	3m~5m未満 (2階床上-軒下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床上-軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分 (十分じゃないと…)

水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります

※●家屋倒壊等氾濫想定区域や●水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認して下さい。

『大通防災だより』の発行は新潟市地域活動補助事業です



発行 大通地域生活センター内 大通コミュニティ自主防災会 TEL 025-362-1491